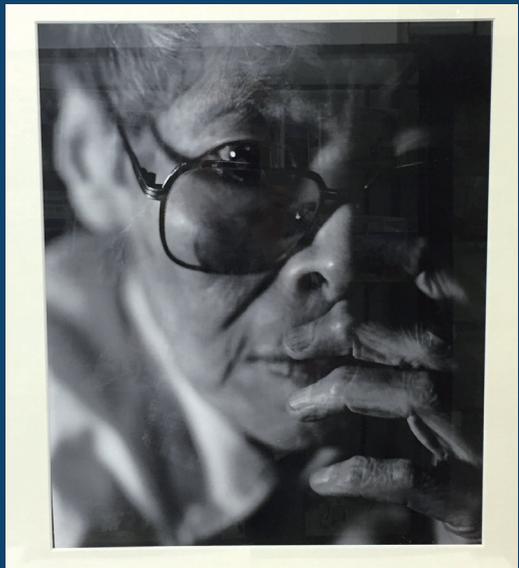


Special Feature

小松崎茂の世界 Shigeru Komatsuzaki

昭和の時代を体験しているなら、その名は知らなくとも、小松崎茂が描いた作品は必ず目にはしているだろう。近年、残された数多くの作品が再注目され、その偉業を称えて作品集等も出版されているが、今回はその小松崎茂の世界を体感できる「小松崎茂ワールド」と名付けられた展示コーナーがある『昭和の杜博物館』（P7で紹介）を訪れた。小松崎茂が愛用していた私物を含めて、大切な作品の一部を本人から託されて展示することになったそうだ。



～ 少年の夢を描き続けた異能の画家 ～

【小松崎茂】

画家・イラストレーター。大正4年、東京・南千住生まれ。13歳の時に御大典美術展覧会3等賞受賞。16歳の時に日本画家堀田秀叢に師事、20歳の時に人気挿絵画家小林秀恒に師事。21歳から東京のスケッチを始める。その後、戦記物、口絵、空想科学イラスト等で幅広く活躍するが、一躍その名を知らしめたのは、1960年代から1970年代にかけて飛躍的に製造が普及したプラモデルボックスアート（箱絵・パッケージアート）で使用されるイメージ・イラストを手掛けたこと。タミヤ、今井科学、日東科学、バンダイ等の模型業界から数多くの依頼を受け、夢があって迫力満点且つ独特のタッチで描かれたイラストで昭和のプラモデル・ブームに多大な貢献を果たした。2001年12月7日に心不全により86歳で永眠するまで生涯現役を貫き、現在も数多くのファンが存在する。あの立川談志（落語家）も以下のメッセージを残している。「小松崎茂、鈴木御水、梁川剛一、伊藤彦造、川上四郎、河目悌次……なつかしくて涙が流れそうである……。」

【小松崎茂と音楽】

まず右上の肖像写真をじっと見つめてみて欲しい。晩年のマイルス・デイヴィスのような佇まいとオーラを感じないだろうか？ 一見鋭いがきらりと光る瞳の奥には、マイルスがトランペット1本で人々を魅了したように、筆1本で少年から大人までも魅了し続けた職人魂を感じると共に夢を見続ける少年のような輝きがある。

小松崎茂がプライベートでどんなジャンルの音楽を聴いていたのかは分からないが、日本の音楽シーンでも小松崎茂の作品が息づいている。まずは、今年2016年5月5日に84歳でこの世を去ったシンセサイザーを使った電子音楽の第一人者で、世界的な作曲家だった富田勲が音楽を手掛けた『マイティ・ジャック』のオリジナル・サウンドトラック盤（1978年）のジャケット。そして、シンガー・ソングライターの名佳孝が1984年に発表した9作目のオリジナル・アルバム『冒険王』のジャケット。また、ピエール瀧との“電気グルーヴ”での活動の他、DJ／プロデューサー、リミキサーとして多彩な活動を行なっている石野卓球監修によるDJMIXアルバムのMIX-UPシリーズ～『MIX-UP VOL.1』（TAKKYU ISHINO / 1996年）、『MIX-UP VOL.2』（JEFF MILLS / 1996年）、『MIX-UP VOL.3』（KEN ISHII / 1996年）、『MIX-UP VOL.4』（FUMIYA TANAKA / 1996年）、『MIX-UP VOL.5』（DERRICK MAY / 1997年）のジャケットも小松崎茂が描いている。どの作品も素敵なお松崎茂の世界観が描かれているので、機会があればぜひ見てみて欲しい。

小松崎茂ワールド ～「昭和の杜博物館」



「小松崎茂ワールド」入口

『昭和の杜博物館』の「展示館1階」に広がる“小松崎茂ワールド”の入口。昭和の時代に触れることができる特別な空間。



小松崎茂の名作がズラリ！

小松崎茂の名を一躍知らしめたプラモデルボックスアート（箱絵・パッケージアート）や飛び出す絵本が展示された入口脇のケース。



小松崎茂の愛用品

数々の名作を描き出した小松崎茂のこだわりと愛着、職人魂を感じさせるたくさんの筆やインク、お気に入りだったダバコ等々。



平和への想い

戦争体験者として、生涯反戦と平和を訴え続けた小松崎茂が描いた戦時中の生活や子供たちの日常の姿を描いた挿絵の数々。



まぼろし小僧の冒険かるた

小松崎茂が描いた昭和30年にラジオ東京で放送されていた人気連続ラジオ放送劇『まぼろし小僧の冒険』のかるた。



小松崎茂と音楽

小松崎茂が手掛けた石野卓球監修によるDJ MIXアルバム“MIX-UPシリーズ”をはじめ、ウルトラマン関連の作品も展示。

口絵、戦記もの、SF イラスト等

【「口絵」は書籍・雑誌の表紙の次あるいは本文の前に入れるイラスト】



きぼうの出発!



走れ! 夢の超特急



走れ地球超特急



わあ、はやいな!



ジェットレッキヤ



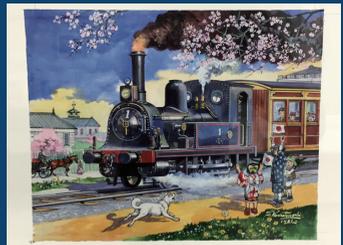
空とぶでんしゃ



空飛ぶ自動車レース



えあかー



SL NO.1



宇宙コロニーII



軍艦



戦艦大和の最期



サンダーバード2号



サンダーバード



ジャイアント・ロボ

昭和の東京、アメリカの風景を描いた作品



東京駅



南千住シネル長屋



銀座尾張町



浅草六区



浅草仁王門前



銀座「モナミ」前



ゴールデンゲートブリッジ



エンパイヤステイトビル

昭和の杜博物館 なつかしの歴史テーマパーク

現代の恵まれた時代の先駆けである昭和時代、その昭和時代を生きた人々、昭和時代を知らない子供達に昭和時代を感じて、楽しんでもらいたいと館長である吉岡光夫さんが20数年の歳月をかけて集めた様々な懐かしのアイテム約3500点が展示されているなつかしの歴史テーマパーク『昭和の杜博物館』。

館内は大きく分けて8つのエリアで構成されており、写真撮影も自由。8つのエリアは今回特集した「小松崎茂ワールド」の他、「昭和の広場」「展示館1階」「おもちゃ館」「模型館」「展示館2階」「クラシックカー館」「フルーツの森」。

「昭和の広場」には、旧国鉄車両、日立電鉄車両、なの花号、クルーザー、小型飛行機、南極昭和基地で使われていた氷上作業車等が並んでおり、「クラシックカー館」にはシボレー（1925年）、スバル360（1970年）、トヨタ 初代パブリカ（1961年）の他、映画『ALWAYS 続三丁目の夕日』に出演した車も並んでいる。ノスタルジック感たっぷり、大人300円という入館料で昭和時代にタイムスリップ出来ることは本当に貴重で、とても贅沢な時間が体感できます。

開園時間：10:00~16:00

開館日：金・土・日・祝日

入館料：大人300円 * 高校生以下無料

駐車場完備

〒270-2221 千葉県松戸市紙敷 1377

(JR 武蔵野線・北総線「東松戸駅」西口より徒歩約15分)

TEL: 047-369-7870 / FAX: 047-369-7881

E-mail: syouwanomori@opal.ocn.ne.jp



『昭和の杜博物館』入口



「昭和の広場」



「クラシックカー館」